



大聖寺実高だより

2022年12月発行
大聖寺実業高校

国立大学に2名合格

特別号

7年ぶりに国立大学に2名合格しました。富山大学（工学部）に合格した平田智也君（錦城中出身）と長岡技術科学大学（工学課程）に合格した小川篤揮君（片山津中出身）にインタビューしました。

◎おめでとうございます。今の気持ちを教えてください。

小川君：インターネットでの発表だったので、合格発表当日は担任の稲葉先生とパソコンの前でドキドキしながら待っていました。自分の受験番号を見つけたときは、嬉しいというよりもホットしました。

平田君：3年間の学校生活が実を結んで本当にうれしい気持ちでいっぱいです。

◎これまでの高校生活を振り返ってみて、印象に残っていることはありますか？

小川君：2年生の時に体験した企業実習です。実習では鉄を曲げたり、溶接をしたりしてペンケースを製作しました。モノづくりの楽しさをあらためて知ることができました。

平田君：僕は、生徒会長として体育祭や文化祭に関わったことです。コロナ禍の影響で体育祭の競技内容や文化祭のクラス発表などにいろいろ制限があったけど、生徒会執行部のみんなで一つ一つ乗り越えて楽しい学校祭を行うことができたことです。

◎大学進学を考えるようになったのはいつごろからですか？また、そのきっかけを教えてください。

小川君：高校に入学したときは就職希望でした。工業分野の授業が面白くて、高校2年の終わり頃から進学を考えるようになりました。

平田君：就職希望で実高に入学したのですが、当時、自分たちが高校を卒業する時は就職が難しい時代になるという予想もあり、1年生のはじめに進学希望に変更しました。何よりも情報系の授業で人口知能に興味を持ったことが決定的な理由です。

◎実高に入学する前と比べ、自分自身が変わったと思うところがありますか？

小川君：高校に入るまではあまり積極的ではなかった気がします。資格取得を通して挑戦することの楽しさを知りました。これからもチャレンジ精神を持ち続けていきたいです。

平田君：軽い気持ちで実高に入学しました。それまでは、将来の夢や目標が定まっていませんでした。資格取得や学校での授業を通して、やりたいことが明確になって、夢や目標を持てるようになりました。



(写真左から) 平田君 小川君

◎実高に入学する前と比べて、実高のイメージはどのように変わりましたか？

小川君：就職するために勉強する学校というイメージでした。進学に対しても補習や個別指導など手厚くサポートしてもらえることを知りました。頑張る生徒をとことん応援してくれる学校です。

平田君：僕も小川君と同じで就職のイメージが強かったです。実高は進路指導が親切です。先生方は、一人一人の進路について一緒に考えてくださいます。

◎大学で勉強したいことや、将来の夢、目標について教えてください。

小川君：大学ではロボットや機械の仕組みを勉強したいと思います。介護の仕事が人手不足だと聞いているので、将来は医療用ロボットを制作する技術者になりたいです。

平田君：プログラミングと人工知能を勉強して、人工知能を研究・開発する技術者になりたいです。

◎最後に、中学生に向けたメッセージをお願いします。

小川君：これからみなさんが成長できるチャンスはたくさんあると思います。興味や関心がある分野を楽しみながら全力で取り組むことでチャンスを活かすことができると思います。実高にはそのようなチャンスがいくつもあります。

平田君：勉強が苦手だといって将来に不安を持たないほうがいいと思います。好きな分野とか得意な分野を見つけて頑張れば将来の夢や目標が見つかると思うし、伸びしろを広げることができると思います。

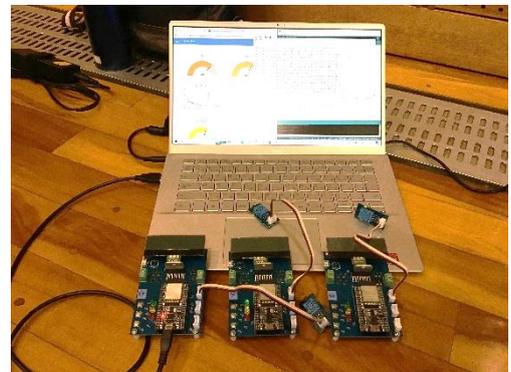
探究活動（課題研究）

3 年生の課題研究では、機械システム科、情報ビジネス科の両学科とも生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら取り組んでいます。

機械システム科

■ 「IoT技術の実用化に向けた取り組み」

熱中症予防システムの構築に取り組んでいます。熱中症予防の目安となる暑さ指数（WBGT）をセンサーで感知し、データをクラウド上のサーバにまとめ、ネットワークを通じて、モニタにリアルタイムで表示するシステムの構築に取り組んでいます。



自作のIoT基板

■ 「地元企業の抱えている課題を共同で解決し、商品化する取り組み」

地域の企業で開発を進めているハンドミルのハンドル形状を共同で開発し商品化を目指しています。考案したデザインは特許庁などが主催するコンテストに応募しています。



共同製作している企業との記念写真

情報ビジネス科

「尼御前サービスエリアのフードコートで提供する料理メニューの開発」「観光動画の制作」など地域活性化に向けた探究活動を行っています。今回は、その取り組みの一つである「商品開発」と「プロジェクションマッピング」について紹介します。

■商品開発

金築祥さん（錦城中出身）：今年はミネラル豊富な片山津温泉の源泉を活用した「生せっけん」を開発しました。ターゲットは加賀温泉郷に訪れた観光客です。高校生が企画した商品なので、ターゲット層は同年代の比較的若い世代としました。また、お土産品としても購入しやすいよう価格設定をおこないました。

小竹満さん（錦城中出身）：この商品の特徴は、加賀市内で栽培された「ルビーロマン」から抽出されたエキスを配合したところです。ブドウに含まれるポリフェノールは、香料や色素として、古くから化粧品に使われてきました。ブドウエキスの抗酸化作用は、お肌の老化を防ぐ効果も期待できます。ぜひ一度お試しください。

中田ちはるさん（錦城中出身）：加賀市はぶどう栽培が盛んで、「加賀ぶどう」は商標登録されていることを知りました。「加賀ぶどう」の中でも、石川県を代表するブランドである「ルビーロマン」を活用することで県内外への宣伝効果を期待しました。

酒井百々さん（山中中出身）：自分たちで特許庁に商標登録を申請しました。知的財産権については「経済活動と法」などの授業で勉強しました。しかし、実際に申請書類に必要事項を記載し申請してみると、この商品の商標権が認められるかどうか少し不安です。

高山莉緒那さん（錦城中出身）：ポスターやラベルについては、泡やブドウ・温泉をイメージしました。そして、それをもとにデザイナーの方とイメージを形にしていきました。何度もやり取りをおこない納得のいくポスターが完成しました。

吉田結華さん（錦城中出身）：CM動画も制作しました。実際に私たちが使っているシーンや、商品の写真・商品の良さが伝わるように編集しました。CM時間は30秒です。また、BGMについては、時代にあった音源を使うなど工夫しました。

森柊菜さん（錦城中出身）：製造工程については、化粧品メーカーである株式会社ケイズ様にお手伝いいただきました。みんなとの考えをまとめることなど、すごく大変でした。ですが、商品が完成されると達成感をすごく感じ、今までの頑張りを実感することができました。だから簡単に体験できないこの経験を活かして、まとめる力・考える力・行動力を今後につなげていきたいです。



共同開発している企業との記念写真

■ プロジェクションマッピング

プロジェクションマッピングに関する知識が全くなかったので、金城大学短期大学の和田 紘樹先生から映像制作ソフトウェアの使い方を学びました。初めて使用するソフトウェアだったので、操作方法や編集方法に慣れるまで時間がかかりましたが、何度も教わるうちに操作方法が身に付きました。プロジェクションマッピングを作成する中で一番苦労したことは、デザインを考えることです。光の動く向きやスピード、色などを少しずつ変化させながらきれいな作品にすることを心掛けました。皆さんも大聖寺実業高校で素敵なプロジェクションマッピングを作ってみませんか！

